



## 滝沢克己の現在

没後40年記念論集

5月16日発売

### 滝沢克己協会編

◆四六判・358頁・定価3740円

### 「純粹神人学」とは何か。

滝沢が最晩年に欧州の神学界に問おうとした思想は、没後40年を経て今なお読む者を魅了し挑発し続ける。それに応答した14名の渾身の論考を収録する。

滝沢克己（たきざわ・かつみ） 1909

—1984年。一高から東京帝大法学部に進んだが直ちに退学。九州帝国大学哲学科に転ず。卒業後、ボン大学でカール・バルトに師事。山口高等商業教授を経て九州大学教授となる。大学闘争では全共闘を支持して辞職。独自のインマヌエル思想を唱え、その影響は「滝沢神学」として国内はもとより海外にも及んだ。



【目次より】

第一部 純粹神人学の可能性の現在

1 実践神人としての中村哲

2 滝沢神学の救済論的な可能性に関して

3 危機にひらかれる自由の在処

4 滝沢克己のドストエフスキー論

私の所有を超えて

— 根源的私的所有批判としての滝沢哲学

5 滝沢克己における「キリスト教と日本人」

第二部 純粹神人学と神学の葛藤の現在

6 滝沢克己とカール・バルトの接点と相違点について 牧村元太郎

7 啓示の光の射程

— 啓示論をめぐる滝沢克己とカール・バルト 寺園喜基

8 間宗教的解釈学としてのバルト受容 S・ヘネツケ

9 滝沢神学における原型 (Urbild) と模範 (Vorbild) 芝田豊彦

— イエス・キリストのペルソナの分析における対概念

第三部 純粹神人学と哲学の現在

10 哲学との一つの真正な出会い方

11 戦前の西田哲学批判の背景 黒田昭信

12 日本哲学史における滝沢克己の位置づけ 前田保

第四部 滝沢克己のインパクトの現在

13 九大反戦と滝沢思想 堀内隆治

— ファントムプレゼンポに寄せて 丹波博紀

14 わからなさへの定位——最首悟と滝沢克己

# クイア神学入門

その複数の声を聴く

5月24日発売

クリス・グリノフ 著／薄井良子 訳

◆四六判・290頁・定価2970円

キリスト教は「クイア」をどう理解しようとしているのか

クイア神学入門



レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシュアリテイの点で非規範的であることを意味する「クイア」。キリスト教会の圧倒的大勢は、従来それらを悪とみなして断罪するか、治療すべき病として異常視するかのいずれかだった。だが今や、教会と神学の中から別の、多様な声が聞こえるようになってきた。

本書は、クイアとキリスト教に関する基本的な概念を平易に解説すると同時に、これら複数の神学的な冒険の歴史と最前線の議論を紹介する。キリスト教は「クイア」をどう理解しようとしているのか。多くの人の疑問に答え、新たな理解と更なる学びへと促す画期的入門書。

ラディカル・ラブ クイア神学入門

◆四六判・定価2530円

パトリック・チェン／工藤万里江 訳

伝統的な三位一体論を大胆に組み替えて、性的少数者の視点から企てられた神学。神の本質を、あらゆる境界線を消してしまうほど過激な愛に見出し、福音を「クイア」なものとして鮮明に打ち出す。

クイア神学の挑戦 クイア、フェミニズム、キリスト教

工藤万里江 著

◆A5判・定価4730円

大きな影響力を持つ三人の女性神学者の思想を精査し、フェミニズム（神学）とクイア（神学）に共通する課題と断絶との双方を明らかにする。クイア神学の多様性、その問題と可能性を展望する。



▼5月の重版

ロゴセラ・ピーと物語

フランクルが教える  
〈意味の人間学〉

勝田茅生著 NHK「まごころの時代」講師

◆定価1760円

ロゴセラ・ピーのエッセンス

18の基本概念

V・フランクル著 / 赤坂桃子訳

◆定価2090円

ミロ斯拉フ・ヴォルフ著 / 彦田理矢子訳

排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・  
和解についての神学的探求

異質な者を憎悪し、殺し、排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し、抱擁することが可能なのか。暴力が猛威を振るう世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な内戦を経験したクロアチア出身の著者は、この問題を探求した本書（1996年）を、自らの知的葛藤の記録であると同時に霊的旅路の記録とも呼ぶ。「クリスチャニティトゥデイ」誌が「20世紀で最も影響力のある100冊」に選んだ書の待望の邦訳。

A5判・予価7700円

マシュー・ホケノス著 / 穂田信子訳

マルティン・ニーメラー

ヒトラーに逆らった牧師 「仮題」

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第2次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキヌニカルな場で活躍した激動の生涯。

四六判・予価3500円

●4月の新刊と雑誌

奴隷より身を起こして

ブッカー・T・ワシントン自伝

佐柳文男・光代訳 / 大森一輝解説



20世紀初頭のアメリカ合衆国で最も著名な黒人だったワシントンの自伝。奴隷として生まれた少年が志を立て、苦学力行の末に成功し、白人上流層からも賞賛され受け入れられていく過程を、生き生きと語る。黒人「保守派」の元祖と目される人物の自画像を通じて、読者は、差別に対する闘争と迎合の微妙な狭間を考えさせられるだろう。

◆四六判・定価2860円

福音と世界

5月号 バルメン宣言90年

◆定価660円

寄稿者：寺園喜基、平林孝裕、岡田仁、小海基、秋永好晴、吉田新 / 高橋哲哉、川口葉子 / 新連載 田島卓  
連載 今高義也、後藤里菜、長尾優、C・J・サンダース & A・ヤーバー、山崎ランサム和彦、勝村弘也

編集部から

加藤常昭先生が4月に95歳で逝去されました。先生はなんととっても説教に全身全霊を傾けた牧師であり、同時に教育と研究に巨大な功績を残した実践神学者でした。教文館から刊行された4期全37巻におよぶ説教全集は壮観ですが、それ以外にも実にたくさん著書で後進の研究者や牧師・信徒を裨益されました。説教塾という牧師のユニークな相互研鑽活動を指導し、また雑誌の編集主幹として書き手を育てることもなさいました。個人的なことを申せば、私の祖父母が晩年の日々、牧会者としての先生から魂の看取りを受けつつ教会生活を送れたことは感謝に堪えません。新教出版社は教団紛争のあたりから先生と疎遠になりました。しかしある時、先生が高く評価される日・J・イーヴァントの著作集を出したいと相談を申し上げたところ、何のわけかまりもなく応じてくださり、訳者の割り振りばかりか、ご自身も第1巻『説教講義』を担当し、あつという間に訳してくださいましたのです。著作集で既刊のはいまだにこの1冊だけです。必ずしもご壮健ではなかったと伺っていますが、強い使命感と旺盛な知力で肉のとげを克服してこられたのでしょうか。心からお疲れさまでしたと申し上げます。(小林)

販売部から

5月刊行予定の新刊はクリス・グリノフ著『クイア神学入門——その複数の声を聴く』です。「クイア神学入門」を副題に冠しているパトリック・チェン著『ラディカル・ラブ——クイア神学入門』、本邦初となるクイア神学の研究書である工藤万里江著『クイア神学の挑戦——クイア、フェミニズム、キリスト教』に続き、弊社にとつては明示的に「クイア神学」をテーマに据えている3冊目の書籍となります。LGBTQという言葉がじよじよに認知され、多様性という標語が職場や教育現場などで流通するなかで、規範的なものと非規範的なものを問い直す作業が急務となっています。しかしながら、「いまおこなわれていることは、規範の再審か、それとも包摂か」(新教出版社編集部編『統べるもの/叛くもの』)。ここでは、それまで排除してきたものを自らの価値観に取り込む温情主義的な欲望に抗しつつ、いかに異なるものたちが関係し協働しあえるのが問われています。「クイア」という言葉の歴史と背景、そしてその言葉が提起した問いを常に意識しつつ、販売部の一員としてこの新刊を皆さまのもとにお届けできればと考えております。(隅田)

# 福音と世界

2024年  
6

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料(送料共) 8760円

## 特集… 依存と信仰

人間の本質的な在り方としての依存

——医学における依存の問題と自立生話からの解放—— 杉岡良彦

赦しの与え手としての他者への依存  
——ドラマ版『白夜行』における共生関係の内実—— 小西真理子

私がフェミニズムとキリスト教に「依存」する理由—— 栗田隆子

薬物依存を通してみえる世界—— 加藤武士

瓦礫の中のイエス パレスチナ…ムンター・イサーク

【追悼】太田道子さん…………… 空閑厚樹

【新連載】インタビュシリーズ…………… 依田康子さん①

◆女たちの闘い 声をつむぐ、織りなす…………… 依田康子さん①

【好評連載】……………

◆八木重吉の聖書 11…………… 今高義也

◆私は告白する、私の神を 15…………… 長尾 優

◆教会にけるマイノリティ 26…………… サンダーズ、ヤーバー

◆「日本のキリスト教」を読む 26…………… 山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書 30…………… 山崎ランサム和彦

◆古代イスラエル文学史序説 39…………… 勝村弘也